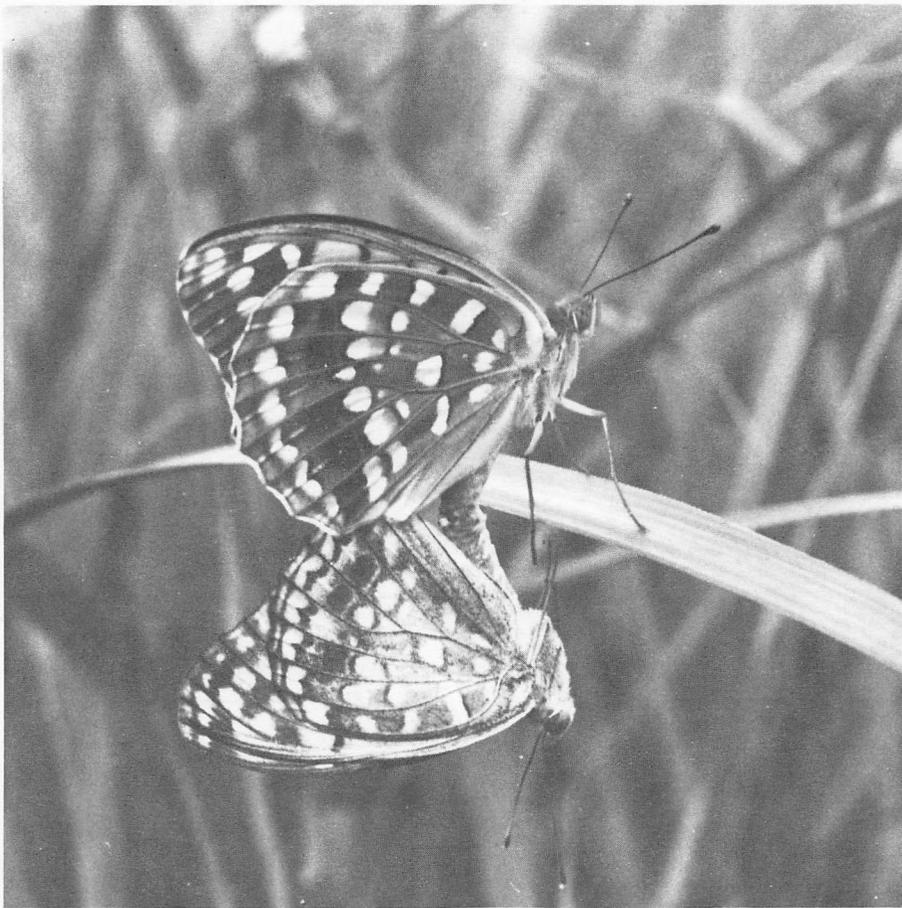


てんとうむし



No.5

姫路昆虫同好会

投 稿 規 定

1. 報文の原稿は次のような体裁にする。

- 1) 原稿は兵庫県の昆虫を対象にしたものに限ります。
- 2) 用紙は400字詰横書原稿用紙を用いる。
- 3) 新かなづかい、原則として当用漢字を使用する。
- 4) 動植物の和名は片仮名で書く。
- 5) データの記載は次のようにする。

2 ♂ 3 ♀ Aug. 19 1979. または、2 ♂ 3 ♀ 19 VIII 1979.

- 6) 図は別紙に用意し、そのまま製版できるよう墨入れしてあること。

本誌は横2段組で一行の長さが7cmになりますので、そのことを考慮して原図を作成して下さい。

また写真は黑白プリントで、図同様7cmにして下さい。

- 7) 引用文献は文末に一括して著者名のアルファベット順に下記のような形式で記す。

木村三郎(1977)上月町のシルビアシジミてんとうむしNo. 4 : 4

川副昭・若林守男(1976)原色日本蝶類図鑑 保育社 大阪

また引用したものについては本文中に著者名と年号、たとえば木村三郎(1977)と書いて下さい。

2. 原稿の登載順序、活字の指定、校正などは編集幹事に一任して下さい。

3. 投稿御希望者は原稿を本会事務局までお送り下さい。

表 紙

オオウラギンヒョウモンの交尾

兵庫県下に生息するヒョウモンチョウ類の中で、ヒョウモンモドキに次いで珍しい種である本種は、県下でも数ヶ所の生息地を除いて最近その姿を見ることができなくなった。

1979年8月14日にその数少ない産地の一つ、杉ヶ沢高原を訪れる機会があり、幸運にも本種の交尾行動をカメラに収めることができた

(交尾飛翔形式は←♀+♂)。

杉ヶ沢高原の草原はよく手入れが行き届き、本種が絶滅したと思われる栃原のように、草原に小木、雑草が繁茂するようなことがなく、雑草の間には本種の食草であるスミレの類が多く見られ、オカトラノオ、ヒヨドリバナ、アザミなどの吸蜜植物も多く本種の楽園でもある。

(広畑政己)

揖 竜 地 区 の 蜻 蛉 相

相 坂 耕 作

「夕焼け小焼けの赤トンボ負われて見たのはいつの日か 山の畑の桑の実を小籠につんでは幻しか」これは有名な三木露風作詞の赤トンボの一節である。文学碑としていまも竜野公園の中心をなして立っている。また三木露風の生家も同公園付近にある。

このように竜野市(旧揖保郡竜野町)は全国に知られるトンボに関係の深い地であり、付近にはトンボにちなみ国民宿舎「赤トンボ荘」製麺会社が以前つけていた「鬼ヤンマラーメン」、ゴミ集回車の「赤トンボのチャイム」など数えあげればきりが無い程トンボとはきってもきれない土地柄なのである。

兵庫県下のトンボ研究は旧い所では井口宗平・兵庫県佐用郡産35種(1908)、戸沢義信・甲山付近の蜻蛉47種(1930)があり、近いところで山本義丸・兵庫県水上郡昆虫目録NATURA特別号(1958)で62種、最近としては関西トンボ談話会・近畿地方のトンボで兵庫県下の詳しいリストが出来つつあるが、西播磨の中心でもある揖竜地区のトンボの文献はほとんどない。幸いにも私は高校時代を揖保川のそばで学んだ。学校の裏山は原始林「鶏籠山」で、学校の近くには野生の鹿が水を飲みにくるほど自然に恵まれた地でもあった。

また私はあることがきっかけで今回も標本等御恵与下さった菅原昭夫氏と知り合い氏のお宅が揖保郡御津町ということで竜野市同様よく同地を訪れる機会があり御津町のトンボを多く調査することが出来た。尚菅原氏には多くの知見を得、その大きなものとして同氏のハネピロエゾトンボの発見である。それがきっかけとなりオオエゾトンボなど稀種トンボの同地での発見、マルタンヤンマ・アオヤンマ・ハネピロトンボなど分布上注目すべきトンボ、極めて稀種といわれるネアカヨシヤンマの発見へとつながったわけである。

今回揖竜地区のトンボ相としてリストを作ったのは私自身が所蔵の標本52種および私自身が目撃した種1種および三木安貞氏所蔵の標本1種であり、文献上にある種類(例えばハッチョウトンボやタイリクアカネ等)は省くことにした。その理

由としてトンボの生活環境は幼虫時代は水中生活をするという過程を経るから、何らかの影響により水質が悪くなっていれば絶滅ということも考えられるから(もちろん採集資料にもいえるが)で実際に採集した資料ほど確実さが無いと思うからである。

以上のようなことから不完全ではあるが、興味ある種も少くはないのでここに報告をし、尚完全な揖竜地区の蜻蛉リストを作るべく努力をしたいと思えます。

尚この本文を稿するに当りエゾトンボ科の同定をお願いした国際蜻蛉学会の井上清先生および貴重な標本の恵与や資料を頂いた姫路昆虫同好会のトンボ屋仲間三木安貞・菅原昭夫各氏に感謝致します。

トンボの採集地は次の記号で表した

竜野市竜野町	A
〃 揖西町	B
揖保郡御津町	C
〃 揖保川町	D
〃 太子町	E

「蜻 蛉 類」

均 翅 類

- イトトンボ科 Agriionidae
 - キイトトンボ *Ceriagrion melanurum* Selys.
1972, 8 C
1972, 9 D
出現期 5~9月
 - アジアイトトンボ *Ischnura asiatica* Brauer.
1972, 9 C
1973, 5 C
出現期 5~9月
 - アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis* Rambur:
1976, 8 C
出現期 4~10月

- (4) クロイトトンボ *Cercion catamorum*
Ris:
1972, 8 C
1972, 9 C
出現期 5~9月
- (5) セスジイトトンボ *Cercion hieroglyphicum* Brauer:
1976, 5 C
1976, 8 C
出現期 5~9月
2. モノサシトンボ科 *Platycnemidae*
- (6) モノサシトンボ *Copera annulata*
Selys.
1969, 9 A
1972, 8 A
1972, 8 C
1972, 9 D
1973, 5 C
1975, 9 A
1976, 9 C
出現期 5~9月
3. アオイトトンボ *Lestidae*
- (7) アオイトトンボ *Lestes sponsa*
Hansemann.
1972, 7 E
出現期 5~10月
- (8) コバネアオイトトンボ *Lestes japonicus* Selys.
1972, 7 E
1976, 9 C
出現期 5~10月
4. カワトンボ科 *Calopterygidae*
- (9) ハグロトンボ *Calopteryx atrata*
Selys.
1966, 7 A
1972, 8 C
出現期 5~10月
- (10) カワトンボ *Mnais strigata*
Selys.
1967, 5 A
出現期 4~7月
採集品は淡橙色型であるがおそらく一般的な透明型も分布しているものと思う。
- 不均翅類
5. サナエトンボ科 *Gomphidae*
- (11) ヤマサナエ *Gomphus melaenops*
Selys.
1965, 5 A
出現期 4~7月
- (12) フタスジサナエ *Trigomphus interruptus* Selys.
1973, 5 C
1973, 4 B
1973, 5 B
1973, 7 B
出現期 4~7月
5月頃山間部の水田および池の付近に多い。
- (13) オグマサナエ *Trigomphus ogumai*
Asahina.
1973, 4 C
1973, 5 C
1973, 4 B
1973, 5 B
出現期 4~5月
溜池や灌漑用の溝川などに多い西播地方で春期最も多いサナエトンボである。
- (14) タベサナエ *Trigomphus cltimus*
tabei Asahina.
1966, 5 A
出現期 4~6月
前種と同じく春のサナエトンボだがオグマサナエほど多くはないようである。
- (15) ダビドサナエ *Pauidius nanus* Selys.
1967, 5 A
出現期 4~6月
山間の溪流沿いにのみ見出される。
- (16) オジロサナエ *Stylogomphus suxurii*
Oguma.
1965, 6 A
出現期 5~8月
広範囲に分布しているが、いずれの地でも少ない。
- (17) オナガサナエ *Onychogomphus viridicostus* Oguma.
1966, 7 A
1967, 6 A
1976, 7 C
出現期 6~9月

(18) コオニヤンマ *Sieboldius albardae*
Selys.

1966, 6 A (新宮町との間)
1967, 6 A
1976, 8 A

出現期 5~9月

(19) ウチワヤンマ *Ictinus clauatus*
Fabricius.

1972, 7 C
1972, 8 C

出現期 6~9月

6. オニヤンマ科 *Cordulegasteridae*:(20) オニヤンマ *Anotogaster sieboldii*
Selys.

1966, 6 A
1967, 7 A
1974, 8 C
1976, 8 A

出現期 6~9月

7. ヤンマ科 *Aeschnidae*(21) サラサヤンマ *Jagoria pryori*
Martw.

1973, 6 C

出現期 5~6月

ヤンマ科では小型で黒色地に黄色斑の発達した美麗種であり、兵庫県下では稀種に属している。

(22) ミルンヤンマ *Planaeschna milnei*
Selys.

1967, 9 A
1972, 8 A
1972, 9 C
1975, 8 C

出現期 6~11月

山地に普通にいる黒地に黄色斑のきれいな種で特に複眼は美しい。好暮性を持っている。

(23) アオヤンマ *Aeschebia longistigma*
Selys.

1976, 8 C

出現期 5~7月

名前のごとく全身があざやかな緑色の美しい中型のヤンマで昔は多くいたが近年都市の開発により生息池の埋め立てにより絶滅にひんしているところが多く、生息地より遠くは

なれることは少ないので注意しなければこの珍トンボも見られなくなるかもしれない。

(24) ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* Selys.

1976, 8 C

出現期 6~8月

太身の大型ヤンマで前種と同様減少し、きわめて稀種といわれるヤンマで、この種を採集した時たいへんなものを採ったという感じがした図鑑などでしてはいたが突然それが目の前に現われた時はまったく驚いた。我が国の特産種ともいえる稀種で西播地の都市開発等に当たっては十分留意願いたいものである。

(25) カトリヤンマ *Cynacantha japonica*
Bartenef.

1974, 8 C

1976, 9 C

出現期 6~11月

最近山地へいかなければ見られなくなった。

(26) ヤブヤンマ *Polycant hagnya melanictera* Selys.

1976, 9 C

出現期 5~9月

♂は黒色地に青緑斑があり美しく、♀は全体に黄色部が多く一見別種の感じがする。

(27) マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini* Selys.

1976, 9 C

出現期 6~9月

(この種は三木安貞氏採藏品で分布上重要なので所蔵ではないが同氏の好意により分布に入れた)

南方系の代表的な種で♂は大変美しく採集しにくい黄昏活動をする。

(28) キンヤンマ *Anax parthenope julius*
Bkauer.

1973, 7 C

1974, 8 C

出現期 4~10月

ヤンマ中最普通種であるが近年はそんなに多産する池はあまりない。

- 29) クロスジギンヤンマ *Anax nigrofa nigrofasciatus nigrofasciatus* Ogwma.
 1973, .6 A
 出現期 5~6月
 (この種は目撃種であるが一度採集し、三角紙におさめる際ににがしてしまった)ギンヤンマとよくにているが出現期が早く胸に黒いスジがあるのですぐ見分けられる。
8. エゾトンボ科 *Corduliiidae*
- 30) トラフトンボ *Epithecina marginata* Selys.
 1973, 5 B
 1976, 5 C
 出現期 4~5月
 5月頃よく古い池の周囲を徘徊飛翔をしている。生活地を失いやがて絶滅するかもしれない。
- 31) オオエゾトンボ *S. V. atrovirens* Selys.
 1976, 9 C
 出現期 6~9月
 関西に産するエゾトンボ科では稀種に属す。
- 32) ハネビロエゾトンボ *Somatochlora clauata* Oguma.
 1972, 9 C
 出現期 6~9月
 やはり前種同様稀種に属す。このようなトンボを絶滅を防ぐにはやはり生活環境を変えないことであるので都市開発の犠牲にはしたくないと思う。
- 33) タカネトンボ *Somatochlora uchidai* Foersper.
 1975, 9 A
 1976, 9 C
 出現期 6~10月
 金緑色をした美しい種で少ないながら揖尾地区にも分布する。山地の小池に9月頃特に多くが縄張り占有飛郡をし小池の内側を岸に接して飛ぶので採集は容易である。
9. ヤマトンボ科 *Macromiidae*
- 34) コヤマトンボ *Macromia amphigena amphigena* Selys.
 1967, 5 A
 1967, 6 A
 1973, 5 C
 1973, 6 C
 出現期 5~8月
 山間の溪流沿いや丘陵地に多くみられる。
- 35) オオヤマトンボ *Epoptthalmia elegans* Brauer.
 1972, 8 C
 1973, 5 C
 1973, 6 C
 1973, 7 C
 1976, 9 C
 出現期 5~9月
 大型のトンボで池をウチワヤンマと共によく徘徊している。
10. トンボ科 *Libellulidae*
- 36) ハラビロトンボ *Lyrlothemis pachygastra* Selys.
 1966, 7 A
 1973, 5 C
 1973, 6 C
 出現期 4~9月
 田んぼや小川の付近に多い種だが最近減った。
- 37) シオカラトンボ *Orthetrum albistyrum speciosum* Uhler.
 1966, 6 A
 1973, 5 C
 1975, 9 B
 1976, 8 C
 1976, 9 C
 出現期 4~10月
 この種の♀をムギワラトンボと揖尾地区でも呼ぶ。
- 38) シオヤトンボ *Orthetrum japonicum japonicum* Uhler.
 1966, 6 A
 1973, 5 C
 1975, 9 B
 1976, 8 C
 1976, 9 C
 出現期 5~9月
- 39) オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melama* Selys.

- 1965, 7 A
 1967, 6 A
 1969, 9 A
 1973, 5 C
 1973, 7 C
 1976, 8 C
 1976, 9 C
 出現期 5~9月
 (40) ショウジョウトンボ *Crocthemis seruilia* Drury.
 1973, 6 C
 1973, 7 B
 1973, 7 C
 1976, 8 C
 出現期 4~10月
 ♂は真紅、♀は橙黄色で♀のテネラル(未熟)は体色は淡く翅も全体に淡黄色でオオキトンボのような色で別種の感がする。
 (41) コフキトンボ *Deielia phaon* Selys.
 1972, 8 C
 1973, 5 C
 1973, 6 C
 出現期 5~9月
 県下では局地的に多産する種である。
 (42) ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum elatum* Selys.
 1966, 9 A
 出現期 6~11月
 (43) ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* Selys.
 1966, 9 A
 出現期 6~12月
 (44) アキアカネ *Sympetrum frequens* Selys.
 1976, 10 C
 出現期 6~12月
 (45) マイコアカネ *Sympetrum kunckeli* Selys.
 1972, 8 C
 1972, 9 C
 1972, 9 D
 出現期 6~11月
 (46) ヒメアカネ *Sympetrum parum* Bartenbf.
 1972, 9 D
 1976, 9 C
 出現期 7~10月
 山すその水田に多いが珍しい種類である。
 (47) マユタテアカネ *Sympetrum eroticum eroticum* Selys.
 1966, 9 A
 1972, 8 A
 1972, 9 C
 1972, 9 D
 1973, 7 C
 1975, 9 B
 1975, 9 A
 1976, 8 C
 出現期 6~12月
 (48) リスアカネ *Sympetrum risirisi* Bartenef.
 1966, 9 A
 1972, 8 A
 1972, 9 C
 1973, 7 C
 1975, 9 B
 1976, 8 C
 出現期
 (49) ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* Selys.
 1966, 9 A
 出現期 7~10月
 (50) ナニワトンボ *Sympetrum gracile* Oguna.
 1975, 9 B
 1976, 8 C
 1976, 9 C
 出現期 7~11月
 近畿地方および中国・四国の瀬戸内海に面した地域から記録されているに過ぎない。ナニワトンボのナニワとは大阪の意味。
 (51) ネキトンボ *Sympetrum speciosum speciosum* Oguna.
 1972, 8 C
 出現期 6~10月
 個体数は少ない。
 (52) キトンボ *Sympetrum croceolum* Selys.

- 1976, 10 C
出現期 7~11月
- 53) ウスバキトンボ *Pantala flarescens*
Fabricius.
1972, 9 D
1973, 6 C
1976, 8 C
1976, 9 C
出現期 6~10月
初夏より秋までみられる。特に9月上旬にはよく群飛する。世界的に分布の広は種で世界共通種とされる。
- 54) ハネビロトンボ *Tramea virginia*
Rambur.
1975, 7 C
出現期 5~10月
小笠原諸島、四国南部、九州南部にすむ種であり、本州でも愛知、三重、静岡、長野、千葉、各県でも採集されたことがあり、兵庫県下でも採集されたことが数回ある。この御津町産はやはり偶発と考える。
- 55) コシアキトンボ *Pseudothemis zonata*
Burmeister.
1972, 8 C
1973, 6 C
1973, 7 B
1973, 7 C
出現期 6~9月
- 56) チョウトンボ *Rhyothemis faliginosa*
Selys.
1972, 8 C
1973, 7 C
出現期 6~9月

以上10科56種の記録を得て揖保地区の蜻蛉相の大体のようすが判って頂けたと思う。しかし、私個人が調査したものでは偏差した採集資料ともなっているかもしれない。今後残された課題として揖保川をはさんだ揖保郡新宮町、宍粟郡山崎町、宍粟郡一宮町全域を調査しなければいけないと思う。

終わりに揖保郡および竜野市に分布可能な種を列挙しておく。

分布可能と思われる種 (和名のみ)

ゲンバイトンボ、ホソミオツネントンボ、オオア

オイトトンボ、ムカシヤンマ、キイロサナエ、アオサナエ、コシボソヤンマ、オオルリボシヤンマ、ヨツボシトンボ、ハッチョウトンボ、タイリクアカネ、コノシメトンボ、マダラナニワトンボ、オオキトンボ

◆参考文献◆

- 朝比奈正二郎 日本の蜻蛉「新昆虫」(北隆館) 1956~1958
他 日本昆虫図鑑 北隆館 昭和40年発行
石田昇三 日本生態図鑑 トンボ編(北隆館) 昭和44年発行
奥谷植一他 兵庫県の自然の現状(兵庫県生活部自然課) 昭和49年発行
関西トンボ談話会 近畿地方のトンボ
ムカシトンボ科 1974発行
ムカシヤンマ科
サナエトンボ科
オニヤンマ科
ヤンマ科 1975発行
ヤマトンボ科
エゾトンボ科
トンボ科 1976発行
[S. 05:姫路市]

ナガサキアゲハ御津町 室津に大発生

花岡 正

8月30日当会のメンバーが御津町新舞子にて1雄を採集(これは同市では最初の採集品だと思ふ)この情報で9月4日に米村氏、唐土氏と私の3人で室津に採集に行き結果24雄6雌を採集。ネットに入れ放したり、採り逃したりした物を合せると60頭以上を:大浦でも2雄を目撃した。この室津では栽培を放棄されたミカン畑や、野生の木があちこちに見られ、産卵も確認したので土着の可能性が非常に高い。来年の春が楽しみだ。

(S. 19:姫路市)

兵庫県産ナガサキアゲハの分布について

広 畑 政 己

1. 屋外で越冬中のナガサキアゲハ

筆者の庭のミカンの木では、ナガサキアゲハの蛹が越冬している。この蛹は、1976年9月4日に、徳島県穴喰町に於て、佐々木薫氏が採集された成虫から採卵し、筆者がミカンにて飼育し、そのままの状態、屋外に放置しているものである。

食樹のミカンは、樹高約1mの小さなもので、高さ50cm~80cmの幹に、それぞれ蛹化している。食樹の植えられている庭は、標高178mの山の北側斜面を切り開いた宅地内にあり、東側も山になっているため、同地域内の平野部と比較すると、気象条件も厳しく、日照時間も短い。食樹には、天敵から幼虫、蛹を守るため、採集用ネットを覆い、終始このままの状態で現在に至っている。6頭の蛹は、2月13日現在、蛹化当初からの状態を維持し、死滅したような形跡がみられないところから、生存していると思われるので報告する。尚、今年の当地に於ける冬期気象状況等については、羽化を待つて次の機会に報告したく考えている。

2. 県下本州側にて春型採集

本種の県下に於ける採集記録については、過去宝塚市、芦屋市、西宮市、神戸市、加古川市、姫路市、赤穂市など数例が報告されている。

淡路島では、1965年以降毎年発生がみられ、少数ながら春型も得られている。卵、幼虫、蛹、成虫の生活史全プロセスの内、冬期越冬蛹の確認はまだされていないが、冬期気温などから判断して、淡路島での土着は確実とみられている。これに対し、本州側での採集例は、すべてが夏以降のもので、特に冬期気温の関係から、土着の可能性はないものと考えられていた。しかし、1975年6月15日に、宍粟郡一宮町福知にて、尾崎勇が1♂を採集されてから、極めて僅かながら採集されるようになった。1976年5月28日には赤穂市上飯屋にて岩村巖氏が1♀を採集、

同年6月6日には、三日月町三日月に於て、広利雅美氏によって1♀が採集されている。本州側での春型の採集記録は、上記採集例が初めてのように思われる。いずれの個体も新鮮で、遠方から飛来したとも考えがたく、昨年、一昨年と、春型が採集されていることは、非常に興味深い。尚、これまで本州側からは、次の採集記録が報告されている。

宝塚市ファミリーランド				
23	VIII	1955	1♀	福貴正三
芦屋市の裏山				
—	VII	1956	1♀	伊藤 建
西宮市東浜町				
10	VIII	1956	1♀	尾崎郁也
加古川市北在家				
17	VII	1958	1♀	幹 昌典
加古川市北在家				
24	VIII	1958	1♀	幹 昌典
姫路市広畑地区				
19	VIII	1959	1♂	—
赤穂市尾崎				
下旬	VII	1961	1♀	北条 正
赤穂市尾崎				
上旬	VIII	1961	1♂	花房竜生
赤穂市尾崎				
19	IX	1965	1♂	勝川 剛
神戸市板宿				
3	VII	1967	1♀	藤本 寛
赤穂市上飯屋				
11	IX	1974	1♀	橋本圭司
宍粟郡一宮町福知				
15	VI	1975	1♂	尾崎 勇
赤穂市上飯屋				
28	V	1976	1♀	岩村 巖
佐用郡三日月町三日月				
6	VI	1976	1♀	広利雅美

3 気 温

ナガサキアゲハが県下の本州側に於て、土着種となり得るかどうかの条件として、冬期気温が上げられる。気温については、同地域内でも、地形によってかなりの差が生じ、蛹化場所によっても微妙に違ってくる。どのような気象条件で越冬できるかは、筆者の庭にて越冬中の蛹の結果などからも判断するとして、本州側で採集された、春型の個体が、本州側で越冬したと仮定すると、1975年12月～1976年2月の冬期気温が問題となる。

そこでこの期間中の月平均最低気温と極値、最低気温0℃以下の日数を表2に表した。この表を見る限りでは、土着が確実とされている淡路島と比較すると、本州側では、厳しい気象条件下にある。春型が採集された赤穂市は、姫路市と家島の気温の中間に値すると思われるが、

温暖な淡路島各地と比較すると、やはり冬期気温は低い。しかし土着の可能性がないとは言い難い。

4. 食 樹

ナガサキアゲハの食樹については、ミカン科のミカン属を食すとされている。県下にも分布する同じ南方系のモンキアゲハと比較すると、カラスザンショウなどのサンショウ属からの報告がなく、ミカン、ナツミカン、ザボン、ダイダイ、ネーブル、ユズ、ヒラミレモンなどの、Citrus (ミカン属)とPoncirus (カラタチ属)などが報告されている。特にその依存の状況は、栽培種に集中している。

ウンシュウミカンの作付面積は、1952年に全国で約47,000ヘクタールあり、1961年には、71,700ヘクタールと増えている。同じ頃、ミ

表2 1975年～1976年年冬期気温

地名	12 月			1 月			2 月		
	平均最低気温	極値	0℃以下の日数	平均最低気温	極値	0℃以下の日数	平均最低気温	極値	0℃以下の日数
神戸	4.4	0.6	0	1.2	-2.7	12	3.6	-1.2	3
明石	1.5	-3.4	13	-0.7	-5.5	20	1.7	-4.3	14
姫路	1.1	-2.9	17	-1.4	-5.6	22	1.8	-3.1	13
家島	上中旬 (3.3)	(0.1)	-	下旬 (-1.1)	(-3.4)	-	((2.5)	(-2.0)	-
竜野	1.4	-2.6	15	-1.9	-7.1	-	1.2	-4.0	13
上郡	-0.5	-4.7	20	-3.5	-7.5	29	0.3	-5.7	14
洲本	4.8	1.1	0	1.9	-2.0	8	3.7	-0.6	2
五色	4.5	0.6	0	1.0	-3.0	11	3.1	-1.0	4
灘(淡路)	6.3	2.5	0	3.1	-1.0	4	4.9	0.0	1
志筑	5.7	1.2	0	2.2	-0.9	2	4.3	0.5	0
柏原	下旬 (-1.2)	(-3.1)	-	中旬 (-6.5)	(-6.5)	-	(0.2)	(-4.0)	-
西脇	0.0	-4.5	20	-2.4	-6.8	27	0.3	-5.2	17
高砂	1.9	-2.2	11	-0.5	-5.0	18	2.5	-2.0	10

カンの作付面積の増加に伴い、ナガサキアゲハの数も著しく増えたという愛媛県の状態などから判断すると、栽培されているミカンとの関連は、深いものと考えられる。また最近の住宅ブームにより宅地が急増し、庭にミカンの植樹をする家や、生垣にカラタチを植える家が増えていることも、ナガサキアゲハの生息に一役支えている。県下にも自生するユズについては、柑橘中、耐寒性が最も強く、北は福島県までその分布がみられ、県下にも広く分布していると思われるが、詳細は不明である。兵庫県下に於けるミカンの作付面積は、表1の通りである。

5. ミカン栽培と薬剤散布

ミカンの害虫には、カイガラムシ類、コナジラミ類、ダニ類、アブラムシ類、その他に薬を食害する害虫があるが、その薬剤として、石灰ボルドー液、石灰硫黄合剤、ジメトエート、フッソールなど、その害虫によって使い分けられている。

赤穂市農協からの筆者の私信によれば、赤穂市のミカン園では、ヤノネカイガラムシ、ダニ、ルビーロウカイガラムシなどの被害が多く、ルビーロウカイガラムシは、天敵であるルビーアカドリコバチを放飼することにより、害虫を防除しているが、その他のものについては、年間を通じて機械油乳剤、ハイドールなどの薬剤を、害虫の発生に応じて散布している。この散布の回数、度合等は、各々農家によって違いがあるが、ここ数年ミカンの需要供給のバランスの関係から、採算面での問題があり、赤穂地域内でも、ミカン栽培に力を入れる農家が減少し、薬剤散布も中途半ばな状況になっている。この事実は、この地域内で、ナガサキアゲハが生息するには、非常に好ましいことでもある。また赤穂市塩屋の農家からの筆者の私信によれば、アゲハチョウの幼虫は、薬剤を散布しても死なないということである。これは全く死なないということではなく、薬剤散布の後でもよく見かけるという意味の言葉であると思われる。若令幼

表1 兵庫県下に於けるミカンの作付面積

地 区	作付面積 (ヘクタール)		地 区	作付面積 (ヘクタール)	
	ウンシュウミカン	ナツミカン・雑カン		ウンシュウミカン	ナツミカン・雑カン
州 本 市	117	43	神戸市伊川谷	5	
津名郡津名町	95	216	加古川市見土呂	5	
“ 淡路町	42		姫路市的形他	4	
“ 北淡町	86		揖保郡御津町	6	
“ 一宮町	126		赤穂市仮屋他	55	
“ 五色町	86		飾磨郡家島町	13	
“ 東浦町	27		氷上郡春日町	30	
三原郡緑町	83		加東郡滝野町	1	
“ 三原町	8	18	合 計	928	277
“ 西淡町	25				
“ 南淡町	114				

近畿農政局兵庫統計情報事務所調べ (1974年)

虫と終令幼虫では、同じ葉を散布されても、影響力には差があり、害虫によっても、散布する葉の種類が違う為、年間数回(6~7回)に渡って、薬剤を散布した場合でも、強力な薬剤の時に遭遇しなければ、生き残る可能性が高いのではないだろうか。いずれにせよ薬剤が、ナガサキアゲハの幼虫に、どのような影響を及ぼすかは、筆者の知る限りではない。

6. おわりに

1966年5月28日赤穂市で採集された1♀から、岩村巖氏が採卵を試み、卵は得られたものの、無精卵なのか、ふ化には至らなかったことなどから考えれば、当地域内では、生息していたとしても、その数は非常に限られているものと思われる。

春型採集に関連して想像されたことは、ミカンの定植時期が春になっている為、苗木について来た蛹が、当地で越冬することなく羽化したとも考えた。しかし、苗木はすべて愛知県から仕入れている。春型の採集記録は、まだ数例でもあり、今後の調査により、毎年発見される可能性も残している。県下本州側での、春型採集記録と越冬中の蛹に伴い、食樹、気温等、土着の可能性を求めて調査を行ったが、結果的には、土着できるという決定的な材料が得られずに、この報告を終るのは残念である。しかしこの資料が、県下に於けるナガサキアゲハの分布調査の一資料となり得れば、この上ない幸せである。末筆ながら、この小文を書くに当り、貴重な文献を御恵与いただいた登日那明氏、若林守男氏、をはじめ、春型採集データを提供して下さった岩村巖、尾崎勇、広利雅美の諸氏、ならびにナガサキアゲハの幼虫をお譲りいただいた佐々木薫氏、ミカン関連事項、気温等細部に渡ってご教示下さった姫路測候所、姫路農林事務所、赤穂農協、県庁農産園芸課の方々深く感謝を申し述べる。

● 参考文献 ●

- 北村四郎・岡本省吾 原色日本樹木図鑑(1959)
保育社
初島佳彦 日本の樹木(1976)講談社
小笠原佐与市 ミカン栽培全科(1963)
農山漁村文化協会

- 山本広一 兵庫県下のナガサキアゲハについて1)
兵庫生物 Vol. 5 No 2 (1966)
岩村 巖 西播の蝶分布資料5)
兵庫生物 Vol. 5 No 5 (1968)
岩村巖・中谷貴寿 西播の蝶分布資料1)
兵庫生物 Vol. 4 No 2 (1961)
山本広一 兵庫県下に注目すべき数種の蝶(1)
MDK NEWS Vol. 20 No 3 (1968)
登日那明 淡路島の蝶相(1) 佳香蝶No. 26
名古屋昆虫同好会(1974)
福田晴夫・田中洋 鹿児島県の蝶生活(1967)
鹿児島昆虫同好会
長崎生物学会・長崎昆虫同好会 長崎県の蝶
(1973)
白水隆・黒子浩 標準原色図鑑 蝶・蛾(1966)
保育社
井手秀信 愛媛の蝶(1974)愛媛新聞社
原色日本昆虫生態図鑑 チョウ編(1972)保育社
川福昭人・若林守男 原色日本蝶類図鑑(1976)
保育社
(S.28:姫路市)

ギフチョウの赤紋消失 異常型の記録

相坂耕作

ギフチョウの後翅肛角部の赤紋が橙色に変わった個体で、おそらく兵庫県下でも一番早く珍しい記録であったものと思われる。
TSU・I・SO 115号によると尾崎氏発表で兵庫県下で1976年度に得られている。(筆者が飼育で1羽羽化は誤り)ただ文中劣性遺伝で1羽だけに出るとあるが、この個体は1975年度に採集した♀であり受胎板も形成しております。「日本産蝶類図鑑」(藤岡知夫著)によるとヒメギフチョウの赤紋消失型が図示されている。

データ……………(兵庫県三田市1975・IV・18)

S. 05:姫路市

兵庫県のオオウラギンヒョウモン

尾崎 勇

オオウラギンヒョウモンは本州、四国、九州に分布し南西日本では平地及び山地に生息するが産地は局地的である。

兵庫県西部においても産地は局地的で海拔500 mから800 mの高原に生息地があり、平地での発生地は無くその生息地を離れるとあまり見かけなくなる。

発生は年一回で兵庫県西部では遅く7月中旬頃より♂の飛翔が見られ最盛期は7月下旬である。秋にも飛翔が見られるが色はあせ汚損している個体が多い。飼育用の採卵にはこの時期の♀を採集し採卵すれば良い。

生野町生野高原、関宮町杉ヶ沢高原、同町東鉢伏等に多産地があり、その他峰山高原、砥の峰高原、三室高原でも少しは採集されている。佐用郡や赤穂郡、宍粟郡では生息地は見えていない。低地での発生は見られず500 m～800 mの草原にて局所的に発生している。

♀の発生は非常に少なく♂15に♀1ぐらいの割合と思われる。

生野高原産および杉ヶ沢産並に東鉢伏産の個体を比較して見ると生野産は前翅長10♂♂の平均直38.4%杉ヶ沢産7♂♂の平均直35%東鉢伏産20♂♂の平均直34.8%で、生野高原は海拔500 mであるが平地産と大きさにおいては変わらず他の2産地より大きい。

杉ヶ沢産は東鉢伏産と大きさは変わらないが翅表面の地色が少し黒く前翅表外縁の二列の黒斑列の間にある橙色斑紋が小さいので全体が黒く見える個体が7♂♂の内3♂♂有り生野産および杉ヶ沢産では見られない。

オオウラギンヒョウモンは開発、植林のため非常に少なくなり採集に行っても確実に採れる所が少なくなった。生野高原はゴルフ場と成り全滅した様である1975年と1976年に採集に行ったが姿すら見かけなかった。

杉ヶ沢高原も大部分が開墾された大根畑となってしまった。だがまだまだ新産地はあると思われる。生野高原北側の段ヶ峰の峰続きである笠杉山西斜面(一ノ宮町千町部落の奥)や佐用郡の北部、ま

た、県西部の美方町、村岡町、温泉町等には多産地もありそうである。同好諸兄も新産地の開発に努力されたい。姫昆には初心者の方諸兄も多くおられるので次に生息環境を記す。

1. 背のあまり高くない植物のしげる草原である。
2. 近くに雑木林が有り半湿地でスミレ類の成育に適切である。
3. 吸蜜植物であるオカトラノオやアザミ類の花が多く咲いている。

この様な所には他のヒョウモン類も飛んでいる。近似種ウラギンヒョウモンはこの時期には汚損個体が多くオオウラギンヒョウモンは少し赤ぼく見え、慣れると飛翔中でも判別出来る。オオウラギンヒョウモンは大型ヒョウモン類中一番ゆるやかに飛ぶので採り逃がすことはない。

何かまとまりのないことを書いたが私達の廻りの環境が急激に変貌しつつあり早く本県地域の蝶相解明を進めたいものである。

末筆ながら本稿を草するに当たり採集等でお世話になった広畑政己氏ならびに森下泰治氏に厚くお礼を申し上げます。

(S. 26: 明石市)

佐用郡産オオムラサキの

スギタニ型 広利雅美

佐用付近では裏面の黄色い関東型にまじり白色型の関西型も4割ぐらい見られますが、1977年6月30日に当地で後翅肛角部の赤斑が白色に変じている、スギタニ型と言われる白化の顕著な個体1♂を採集しました。兵庫県内では採集例が少ないと思われますので報告します。なお佐用郡産の越冬幼虫50匹を木村三郎氏に飼育依頼した結果1978年6月に3♂2♀のスギタニ型を飼育羽化することが出来ましたので合せて報告させていただきます。飼育等でお世話になった木村三郎氏に厚くお礼を申し上げます。

(J 23: 佐用郡三日月町)

西播におけるウスバシロチョウについて

唐 土 洋 一

兵庫県におけるウスバシロチョウの報文としては、山本広一氏によって、すでに発表されておりますが、その後の分布調査について、私の少ない経験を通して、西播（兵庫県の西南部）における分布調査の一端を報告させて頂く。なお、この報文を書くにあたって、貴重なデーターを提供していただいた友人諸氏にお礼を申し上げます。

1. 各地の分布と採集記録

西播においては、千種川、揖保川、夢前川、市川の各流域に採集記録があり、その採集例についてのべてみたい。

1-1) 千種川流域

宍粟郡千種町、佐用郡南光町、佐用町、上月町、三日月町に各々採集記録があり、上月町上秋里あたりが当流域における分布の南限とされている。なお、成虫の発生は三日月産のものが最も早く、本年4月29日に1♀が広利雅美君によって記録されている。私も、同君の連絡により本年4月30日に同地を訪れ1♀8♂♂を採集した。

(採集例)

- 宍粟郡千種町河内 2♀♀21♂♂
1967年5月14日 COL、唐土
- 宍粟郡千種町西河内 7♀♀19♂♂
1967年5月18日 COL、岩村
- 宍粟郡千種町千種 2♂♂
1974年5月19日 COL、花岡
- 宍粟郡千種町岩野辺 5♂♂
1971年5月22日 COL、相坂
- 宍粟郡千種町斎木 2♂♂
1971年5月22日 COL、相坂
- 佐用郡南光町船越 2♂♂
1973年5月18日 COL、花岡
- 佐用郡佐用町奥海 2♂♂
1976年5月22日 COL、川崎
- 佐用郡上月町西大島 1♀25♂♂
1968年5月21日 COL、山本
- 佐用郡上月町上秋里 2♂♂1♀
1971年5月9日 COL、木村

- 佐用郡三日月町春哉 1♀3♂♂
1977年5月3日 COL、鎌井
- 佐用郡三日月町湯浅口 2♂♂
1976年5月9日 COL、尾崎
- 佐用郡三日月町鎌倉 1♂
1976年5月9日 COL、尾崎
- 佐用郡三日月町中村 1♂
1976年5月2日 COL、仲村
- 佐用郡三日月町三日月 9♂♂
1975年5月1日 COL、仲村

1-2) 揖保川流域

宍粟郡波賀町、一宮町、山崎町、揖保川新宮町に各々採集記録があり、新宮町二柏野での記録が現在のところ県下の最南限のものと思われる。

(採集例)

- 宍粟郡波賀町戸倉 5♂♂
1967年5月21日 COL、唐土
- 宍粟郡波賀町道谷 9♂♂
1967年5月21日 COL、唐土
- 宍粟郡波賀町音水 1♀7♂♂
1968年5月24日 COL、岩村
- 宍粟郡波賀町赤西 2♂♂
1975年5月18日 COL、広畑
- 宍粟郡一宮町上岸田 1♀7♂♂
1968年5月20日 COL、岩村
- 宍粟郡一宮町横山 1♀10♂♂
1968年5月21日 COL、岩村
- 宍粟郡一宮町西公文 3♀♀30♂♂
1973年5月30日 COL、岩村
- 宍粟郡一宮町福知 6♀♀40♂♂
1975年5月18日 COL、岩村
- 宍粟郡一宮町小原 5♀♀9♂♂
1975年5月27日 COL、岩村
- 宍粟郡一宮町倉床 5♂♂
1975年5月18日 COL、尾崎
- 宍粟郡一宮町深河谷 1♀25♂♂
1974年5月13日 COL、尾崎
- 宍粟郡一宮町千町 3♂♂
1967年5月21日 COL、尾崎

- 宍粟郡山崎町蔦沢 2 ♀♀ 8 ♂♂
1975年5月23日 COL、岩村
- 揖保郡新宮町相坂 1 ♂
1977年4月30日 COL、唐土
- 揖保郡新宮町二柏野 1 ♂
1976年5月15日 COL、尾崎

1-3) 夢前川流域

飾磨郡夢前町のみ採集記録があり、夢前町菅生潤あたりが当流域における分布の南限とされている。

(採集例)

- 飾磨郡夢前町坂根 3 ♀♀ 1 4 ♂♂
1967年5月16日 COL、米村
- 飾磨郡夢前町馬頭 1 ♂
1977年5月8日 COL、唐土
- 飾磨郡夢前町河原谷 4 ♂♂
1977年5月8日 COL、唐土
- 飾磨郡夢前町佐中 1 ♂
1975年5月25日 COL、尾崎
- 飾磨郡夢前町態部 2 ♂♂
1975年5月18日 COL、木村
- 飾磨郡夢前町菅生潤 1 ♂
1968年5月14日 COL、木村

1-4) 市川流域

神崎郡大河内町のみ採集記録があり、大河内町上小田あたりが当流域における分布の南限とされている。

(採集例)

- 神崎郡大河内町上小田 2 ♀♀ 1 ♂
1968年5月26日 COL、尾崎
- 神崎郡大河内町川上 4 ♀♀ 1 6 ♂♂
1975年5月17日 COL、広畑

2. おわりに

西播のウスバシロチョウについて、採集記録を中心にその調査の一端をのべるにとどまった。後日、もっと詳細にまとめてみたいと考えている。最近の人工による自然環境の進捗度は、すさまじいものがあり、この蝶にとっては、これからの受難のまともであろうかと思われる。現に、かって多産をほこったとき雪彦山麓では、ほとんどといていくくらい成虫の姿をみるのが困難となっている。初夏の陽光を浴びて、かろやかに舞い、オドリコソウ、ムラサキケマン、ネギの花上にたわむれる彼女等の姿をこの西播の地から失くさないようにしたいと思っている。

(参考資料)

兵庫生物 VOL、
山本広一 兵庫県下のウスバシロチョウについて (I)
(S18:相生市)

姫路市飾磨区の蝶相

桑 名 誠

1974年8月から1977年4月までに市内飾磨区での採集品と目撃した蝶を中間発表させていただきます

新日本製鉄所をはじめ臨海工業地帯である飾磨区にも非常に多くの蝶が生存しているのに驚きました。

これからも地元の蝶の分布について調査していきたいと思えます。

(アゲハチョウ科……………7種)

アオスジアゲハ・ジャコウアゲハ・モンキアゲハ
クロアゲハ・カラスアゲハ・アゲハ・キアゲハ

(シロチョウ科……………5種)

モンシロチョウ・スジグロシロチョウ(目)・モンキチョウ・キチョウ・ツマグロキチョウ

(ジャノメチョウ科……………6種)

ヒメジャノメ・コジャノメ・ヒナウラナミジャノメ・クロヒカゲ・ヒカゲチョウ・サトキマダラヒカゲ

(セセリチョウ科……………3種)

チャバネセセリ・イチモンジセセリ・キマダラセセリ

(シジミチョウ科……………7種)

ムラサキシジミ・ベニシジミ・ツバメシジミ・ウラナミシジミ・ヤマトシジミ・ルリシジミ・ウラギンシジミ

(タテハチョウ科……………9種)

ウラギンヒョウモン・コムスジ・ルリタテハ・ヒオドシチョウ・キタテハ・ヒメアカタテハ・アカタテハ・コムラサキ・ゴマダラチョウ(目)

以上6科37種 [(目)は目撃したもの]

(姫路市)

相生市の迷蝶

米村 和 繁

相生市は兵庫県の南西部に位置している海に面した造船の町です。

今年（1977年）までに採集された種類数は87種におよんでいる。

アゲハチョウ科11種、タテハチョウ科25種、シジミチョウ科21種、ウラギンシジミ科、マダラチョウ科各1種、セセリチョウ科11種、シロチョウ科7種、ジャノメチョウ科10種

この中で私はイシガケチョウのみ未確認です。今年の9月15日に目撃をしている迷蝶は、タテハチョウ科4種、アゲハチョウ科1種の5種類です。メスアカムラサキは以前発表されたことがあります。

相生市において採集者にもよりますが一部地域に採集されたのは気流の関係があるかもしれません。今後究明すべき点です。

下記の1. 2. 3は台風のあとで採集されたものですが標本はあまりいたんでおりません。

1. リュウキュウムラサキ ♂
1967年 11月 3日 Col 松尾
2. ヤエヤマムラサキ ♀
1971年 8月 12日 Col 石井
3. メスアカムラサキ ♀
1966年 8月 25日 Col 石井
4. イシガケチョウ ?
1973年 9月 ?日 Col 大角
5. ナガサキアゲハ ♂
1977年 9月 10日 Col 米村

(S 29 : 相生市)



ジャコーアゲハの異常型

森下 泰 治

兵庫県神崎郡福崎町井の口にて採集した個体の中に、明らかに異常型と思われるものがあって報告する。この個体は、採集した数頭の中の1♀で、正常な個体に現われる後翅弦月紋が、写真のように全く消失している。このような例は、飼育個体にて報告されているが、自然状態、特に県下ではまだ報告されていないように思われるので写真を添え報告した。尚同地域で同じ日に採集した個体の中に、後翅弦月紋が半ば消失しかけたものがもう1頭含まれていたの、付け加えておきたい。

またこの個体は「てんとうむし」Vol.1.No.1 & 2に発表したものと同じものであるが、説明が不十分であったため補足をし写真を添え報告したことを御承知おきいただきたい。

1 ♀ 12 V 1975 筆者採集、所蔵



〔 S. 16 : 神崎郡福崎町 〕

ナガサキアゲハ 越冬の記録

広畑政己

兼ねてより屋外で放置していた6頭のナガサキアゲハの蛹が、4月29日より5月2日にかけて下記の通り羽化した。

29 IV 1977 1♂2♀
1 V 1977 1♂
2 V 1977 1♀

6頭の蛹の内1蛹だけが2月20日ごろより変色を始め、結局は羽化には至らなかった。

1976～1977年にかけての冬期気温は、表1の通り例年になく厳しいもので、ナガサキアゲハの蛹化したミカンは枯死し、見るも無残な姿となった。

従来ナガサキアゲハの兵庫県下本州側に於ける越冬の為に第1条件として、気温が挙げられていた。ナガサキアゲハが越冬した今年の冬期気温は、累年平均(23年間の平均)と比較すると、12月で0.9°C低く、1月で0.8°C、2月で2°C低くなっている。特に12月26日から1月8日までの14日間は、-3.1°C～-5.2°C、2月1日～2月9日までの9日間は、-3.6°C～-5.4°C、また2月15日～2月19日までの5日間は、-6.1°C～-7.8°Cという寒波にみまわれた。羽化に至らなかった蛹は一頭でもあり断言はできないが、変色の時期から考え、2月15日～2月19日まで続いた-6.1°C以下の寒波に耐えられなかったのではないだろうか。しかしながら5頭が羽化したことなどから考えれば、表2に示した程度の気温であるなら、充分越冬できるものと思われる。

1977年5月上旬に赤穂市にてナガサキアゲハの♀が目撃されており、県下本州側でもここ数年赤穂市を中心とした地域では、土着しているのではないかとと思われる。ただ土着していたとしても、まだ初期の段階で個体数も少なく、天敵、食樹その他の要因で、また見られなくなるというようなことも考えられる。ともかく6頭の蛹の内5頭が屋外で越冬し、羽化したことを、越冬した期間の気温(表2)を添えて報告する。

(S. 28:姫路市)

表1 年代別最低平均気温(°C)

	累年平均	1971年	1972年	1973年	1974年	1975年	1976年	1977年
1月	-1.0	-0.8	1.7	0.8	-1.8	-0.9	-1.6	-1.8
2月	-0.6	-0.4	1.5	1.3	-1.0	-1.1	1.6	-2.6
12月	1.3	0.8	1.8	-1.5	1.8	1.0	0.4	-

姫路測候所調べ

表2 越冬期間中の気温(°C)

	最低平均 気温	極直	0°C以下 日数
12月	0.4	-5.2	12
1月	-1.8	-5.4	24
2月	-2.6	-7.8	22

姫路測候所調べ(1976～1977年)

ベニカミキリの越冬

西高生物部

1977年2月6日増位山の随願寺前にある宝生池の横に、竹やぶがあります。その竹やぶは竹のサクで囲まれています。サクといっても、ほとんど崩壊しかけています。サクの横木となっている最上段の竹は地上から約70cmぐらいのところであって、ところどころにカミキリムシが出たと思われる穴があいていました。ぼくたちはその竹の中にベニカミキリの冬越しを見つけました。それは、竹の表面の硬いところと、空洞の間の部分がほろほろに土のようになっていて、その中にもぐっていました。おおむね竹の中心に背を向けて表面に近いところにいました。

その竹を4mほど破壊して全部の冬越ししているそれを取りだしてみたところ♂27頭、♀23頭の計50頭が確認できました。ほとんどの個体がひげにまだ黄色の膜が残っていました。羽化後すぐに越冬したと思われます。

天気は曇り時々晴れ。気温はわかりませんでしたが目安として宝生池に厚さ2.5cmぐらいの氷がはっていました。

姫路市北部の キマダラルリツバメ

法西定雄

本会（姫路昆虫同好会）の行事の一つに、兵庫県昆虫相解明がとりあげられている。それに関して、姫路市内のキマダラルリツバメの生息状態を、地元のみならずによって調査されたい。

姫路市内のキマダラルリツバメについての私の知り得た情報は、私の長男が姫路工大に学んでいた頃、1958年に、市内伊伝居から御立に行く途中の松林の中に、キマダラルリツバメが生息していることを報らせてくれた。

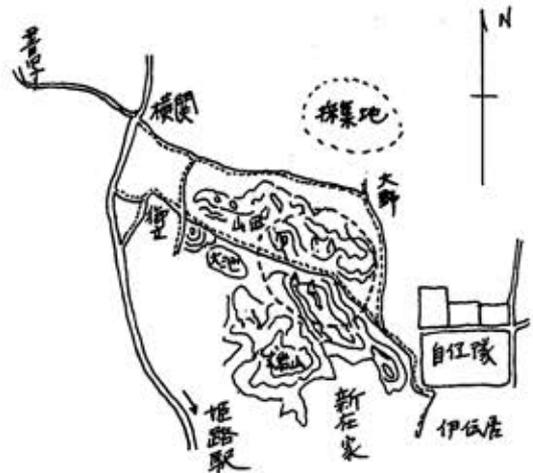
事実を確認するため、1959、60年の2ヶ年にわたって調査し、個体数は少ないが発生していることを確めた。以後、同地を訪れることもなく今日に及んでいる。

16年を経過した現在、この地にキマダラルリツバメが生息しているかどうかは疑問である。高度経済成長の波にのり自然が破壊され、昔の池や松林などすでになくなり、団地や工場に変身しているであろう。そのため、おそらく絶滅したのではなかろうか。私は現況を知りたい。ちなみに、キマダラルリツバメの発生時季は6月下旬が最盛のように思われる。

1960年6月19日、虫同好会で採集会を行なったときの採集記の一部と、当時の地図を掲げ、参考に供したい。

天候曇、後小雨、姫路到着10時、駅前から書写山行バスに乗り、御立にて下車、山田部落をすぎ大池を右に見て、左の赤松樹林に入る、此処が目的地である。赤松林が主で、所々にハンノキが生えていておおよそ昆虫とは縁のない林相を示す。一般採集家の見落とし勝ちな盲点である。しかし、松の木に地衣類が着生しているのが特長である。キマダラルリツバメの幼虫はこの地衣類を食べるといわれている。

〔西宮市〕



ギフチョウの水浴

広畑政己

筆者は1977年4月4日に三田市に於いて、ギフチョウの水浴を目撃したので報告する。

天候は晴、その付近の状況は、直径約25mの池を中心に、落葉樹と常緑樹の混生する林となっている。

水浴をした個体は、約5m位の桜の木の上で、他の一頭の個体と縄張り争いをしていた。そこへ筆者が近づいたため、一頭が桜の木の上から池の中央に向かって飛び去った。その個体は、池の中央付近から3回にわたって、一瞬ではあるが飛びながら、トンボの産卵行動のように水につかり、対岸の林へと消え去った。

その個体の飛び方は、負傷した個体のそれではなく、通常の飛び方であった。筆者が急に近づいたために驚いてあのような行動をとったのか、あるいは縄張り争いの後の体の状態に関係があるのか、その原因は明らかではないが、このような習性についてはこれまで報告がないように思われるので報告する。

(S. 28: 姫路市)

キジョランとアサギマダラ

三木 順一

アサギマダラの食草がキジョランである事は蝶をやる人は皆知っている。所がこの植物は播州には意外に少ない。大きな光沢のある葉、長いつる、一度みたら忘れられない植物だが、知らない方も多し。播州では雪彦山、船越山、上月町の楠田の滝などにみられるが、山径の縁にはない。探すのに困る位である。他の山では殆んどみかけない。最も多いのが加美町の金蔵山(カナクラサン)で、この寺の奥の院に行く途中の水源地付近の杉の植林の下には100米四方位に一面ある。4月3日の総会のあとで、尾崎、石井、森下氏を案内した時はもう日没も近くうす暗かったが、あの特長のある幼虫を3頭得た。

笠形山にはキジョランはみかけなくて、ツルザシワがある。これも食草か、成虫を見る事が出来る。所がこの二種の植物、葉に大きな食痕をみる事が少ない。もう一つこの蝶の食草であるオオカモメズル、どこの低山にもあるが、小さなつる草で葉も小さく、まばらであるが、なかなか幼虫をみない。1本のつる位で、あの大きな幼虫が育つのかしらと不思議である。草に比べて見て成虫が多いように思う。もう一つの食草の「ガガイモ」か、これなら里に近い所にもある。

私はオオムラサキよりも、このアサギマダラの方が好きである。あの幼虫も面白い。キジョランは挿木でもよく育つし、丈夫で日蔭が好きらしい。つるがよく伸びるので、先の芽をつめば低く育つ。試みられることを。

(S. 06: 神崎郡福崎町)

昆虫館だより ④

内海 功一

2月の平均気温は0.05°C、最低は-10.5°Cという気温が2回でした。近年にない冷え込みだが、雪は8cmが最高だった。

館内も3°Cという時もあり心配したが、いま、例年のようにオオナナフシが終 幼虫も含め数百匹出ている。キベリハムシはさきの寒さで、とうとう死んだ。他にコバネイナゴが3 のものを混え、オンブバッタと共に相等でてきた。温室ではヒメギスがでており、キチョウは、もうコーカンボクに産卵している。

2月末オオカマキリがふ化したが、ショウジョウバエもいて、当分やっつけていける。キリギリスも一週間程暖めればふ化するものだが何分、その前に餌の準備がいるなど、自然のサイクルをくるわせることは大変なことがよく分かる。3月に入れば、もう陽気も高まり、館内ではキリギリスも出るし、野外でも虫が多く見られるようになる。虫の次々生まれるこのころは、実に、楽しいときでもある。

(S. 08: 佐用郡南光町船越)

編集後記

会報No.5をお手許におおくりいたします。私事情で休会並みとなり会報の発行が大変遅れ、運営委員長として申訳なく思います。

とくに高橋寿郎氏には原稿をいただきながら迷惑をかけたことをお詫びいたします。

これからも会報をどしどし発行していく予定ですので、兵庫県産の報文等御協力の程お願いいたします。

(運営委員)

目 次

揖竜地区の蜻蛉相	相坂耕作	1
ナガサキアゲハ御津町に大発生	花岡正	6
兵庫県産ナガサキアゲハの分布について	広畑政己	7
ギフチョウの赤紋消失異常型の記録	相坂耕作	10
兵庫県のオオウラギンヒョウモン	尾崎勇	11
佐用郡産オオムラサキのスギタニ型	広利雅美	11
西播におけるウスバシロチョウについて	唐土洋一	12
姫路市飾磨区の蝶相	桑名誠	13
相生市の迷蝶	米村和繁	14
ジャコウアゲハの異常型	森下泰治	14
ナガサキアゲハ越冬の記録	広畑政己	15
ベニカミキリの越冬	西高生物部	15
姫路市北部のキマダラルリツバメ	法西定雄	16
ギフチョウの水浴	広畑政己	16
キジョランとアサギマダラ	三木順一	17
昆虫館だより	内海功一	17

「てんとうむし」 No.5

発行日 1979. 12. 1.

発行 姫路昆虫同好会
飾磨郡夢前町菅生淵161

編集者 木村三郎

印刷 西播印刷所

4/16

2/26 ~ 23

(2/26 ~ 23)